

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	417	2年	前期	臨床検査学科	必修	臨床化学Ⅰ Clinical ChemistryⅠ	30	2
担当教員								
高田 智世	矢野 弘子							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	○ ⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
臨床化学検査を理解するために必要な単位、精度管理、試薬に対する基礎的な知識および基本的な測定法、検体の取り扱い等を学び、現在、臨床の場で行われている検査項目について説明できるようになる。更に各検査項目の測定の原理を理解し、病態の把握、診断、予後判定、治療の適否の判断に繋がる検査結果を得るための方法や適切な結果が得られなかった場合の対応について理解する。								
到達目標（授業目標）								
	1 臨床化学検査で用いる単位や検査における正確度・精度の評価法について説明できる。							
	2 基準値（正常値）の設定法やその意味について説明できる。							
	3 検体や検査試薬の取り扱い方および注意点を説明できる。							
	4 臨床化学検査で用いる検査法や検体の特性に応じた対応について説明できる。							
	5 無機質の測定法と臨床的意義について説明できる。							
	6 血液ガスの測定法と臨床的意義について説明できる。							
	7 脂質検査法と臨床的意義について説明できる。							
	8 栄養評価について説明できる。							
	9 臓器機能検査法とその目的や意義について説明できる。							
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	臨床化学検査概説：臨床化学検査とはなにか、単位の設定法、検査における誤差、正確度・精度の検定法について講義する。（高田）							
2回	精度管理：臨床化学分野における精度管理法の概説について講義する。（高田）							

3回	正常範囲と検体取り扱い：臨床化学検査における正常値の設定法および正常範囲のもつ意味、検体を取り扱う時の注意点の概説、試薬の取り扱い等の基礎知識検体を取り扱う時の注意点について講義する。（高田）									
4回	臨床化学検査分析法（1）：除蛋白法、比色法等について講義する。（矢野）									
5回	臨床化学検査分析法（2）：蛍光法、比濁法概説、炎光法、電気化学分析法について講義する。（矢野）									
6回	無機質の定量（1）：ナトリウム、カリウムの定量（炎光法・電気化学分析も）について講義する。（高田）									
7回	無機質の定量（2）：カルシウム、マグネシウムの定量（原子吸光法も）について講義する。（高田）									
8回	無機質の定量（3）：無機リン、鉄、銅、亜鉛の定量について講義する。（高田）									
9回	血液ガス測定：動脈血ガス分析法、酸塩基平衡について講義する。（高田）									
10回	脂質の検査（1）：脂質異常症概説、リポ蛋白測定、コレステロール測定（1）について講義する。（高田）									
11回	脂質の検査（2）：LDL,HDLコレステロール・トリグリセリド測定法について講義する。（高田）									
12回	脂質の検査（3）：リン脂質、遊離脂肪酸、過酸化脂質、胆汁酸測定法について講義する。（高田）									
13回	臓器機能評価と病態：腫瘍マーカー、骨代謝マーカー、栄養状態評価について講義する。（高田）									
14回	機能検査法（1）：消化吸収試験、膵臓、肝臓機能検査法について講義する。（高田）									
15回	機能検査法（2）：内分泌臓器の機能検査法について講義する。（高田）									
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
試験100%。60点以上を合格とする。										
教科書	浦山修ほか「最新臨床検査学講座 臨床化学検査学」（医歯薬出版）									
参考図書等	必要に応じて別途プリント配布や本の紹介をする。									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
生化学や生化学実習の復習をしながら講義を受けてもらおうと理解が進みます。また、復習の際には、臨床病態学で学んだことを関連づけて理解してください。										
関連科目										
前科目	123	化学	401	分析化学	402	生化学	403	生化学実習	156	臨床病態学Ⅰ(共)
後科目	157	臨床病態学Ⅱ(共)	160	臨床病態学Ⅴ						
実務家教員										
臨床検査技師（医療機関）	高田 智世									
備考	臨床検査技師国家試験で出題数が多い分野です。講義で学んだ内容について毎回必ず復習することにより十分に理解してください。									